

12月14日（木）議案審査特別委員会

Q 1 補正予算中、競馬経営費 54 万 9 千円の内容について伺う。

A 1 今年度途中より、地方競馬全国協会において、新たに設置された広報連絡調整会議及び全国公正確保対策推進会議へ出席するための旅費として計上したものを。

Q 2 それぞれの会議が設置に至った経過、及び、会議はいつどこで開催されるのかを伺う。

A 2 広報連絡調整会議につきましては、地方競馬の売上げは好調に推移しているが、この基調を更に推進し、ファンの獲得拡大を図るため、地方競馬全体での広報の充実を図っていくものとして設立されたもの。また、全国公正確保対策推進会議については、これまでも、公正確保につきまして取り組みを進めてきたが、地方競馬の不祥事案ゼロを目標として、地方競馬界全体で一層の公正確保への取組みを主催者のみならず競馬関係者一同が集まり、公正確保を推進するものとして設立されたもの。会議の開催については、事務局となっている地方競馬全国協会（東京）にて行い、今後、両会議合わせて、7回の開催予定。

Q 3 主催者のみならず競馬関係者が集まるとのことだが、それらの会議の出席はどうなっているのか。

A 3 それぞれの会議については、主催者の代表としまして、ばんえい振興室の各担当が出席する予定。

Q 4 ばんえい振興室の各ご担当者が出席されるとのこと。それぞれの会議に参加することによって得られた内容をしっかり活かしていかなければならない。ばんえいとしてどのように反映させていくつもりなのか。

A 4 広報連絡調整会議にて、地方競馬の魅力を幅広く伝える取組みを推進することによって、地方競馬全体のイメージアップを図り、ばんえいについても、競馬場への来場者の増及び新たなファンの獲得に繋げていけるものと考えている。また、全国公正確保対策推進会議では、全国の各主催者及び調教師、騎手などの厩舎関係者の代表など、地方競馬界全体で公正確保への取組みを推進することによって、ばんえいについても、公正確保への取組みを様々行ってきたが、公正確保に向けた取組みを更に推進できるものと考えている。

Q 5 公正確保において更に取り組みを推進とあるが、厩舎関係者へ取り組みをいかに浸透させるのが大切であるが、どのように考えているのかを伺う。

A 5 全国公正確保対策推進会議にて話し合われた内容や取り組みについても、訓示会や研修会を通じて周知を図るほか、定期的を開催している主催者と調教師会、騎手会との会議にて意見交換を行いながら、厩舎関係者へ取り組みの浸透を図っていく。

Q 6 これまでの不祥事案を考えると、従来の情報共有の在り方でいくと不安が残る。市民理解の醸成のため、外側に向けイメージアップや信頼回復に向けた取り組みはなされている。しかし内側にも同様にしなければならないのではないかと考える。コミュニケーションを例に挙げるが、「言う」と「聞く」の両者には信頼関係がとても大事である。言う側がいくら準備良く、丁寧に言ったとしても、聞く側にその認識がなければ効果はないもの。逆に認識していれば、言う側が言葉足らずでも伝わるもの。競馬関係者内でしっかりとした信頼が構築されていなければ、今回の会議に出席して、内容を伝えても、想い想いの温度差から認識の食い違いが生まれるのではないか。取り組みを効果的に反映させるためにも、競馬関係者同士の信頼関係の向上も工夫し考慮して頂きたいと考える。